

---

# 始まった恋～コナンside～

春崎やよい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

始まった恋〜コナnside〜

### 【Nコード】

N3412E

### 【作者名】

春崎やよい

### 【あらすじ】

コ哀で出来ています。哀saidと対で作りました。お楽しみを！

ずっと俺は、灰原のことが好きになっていた。

いつからだろう？ 出会ったときから？ いや、違う・・・一緒にいるようになってからだ。

教室から飛び出した俺は、屋上に向かった。

あいつのことだから、屋上で空を見ていることだろうな

いっつも言っていたからな

『鳥になって空を飛んでみたい』

あの言葉を聞いたとき、灰原のことが気になりだしたのは・・・

今なら灰原に言える

屋上の扉を思いっきり、開けた

「灰原あ！」

「灰原のことが好きだ！ 付き合ってくれ！」

灰原を抱きしめて言った。

お前は俺のこと好きだよな？

「私も・・・あなたのことが・・・その・・・」

灰原・・・

「私もあなたのことが好きです。」

今、はつきり聞くことが出来た

さっきよりも強く抱きしめ、そして、キスを交わした。

あ、今始めて知ったけど・・・灰原の唇柔らかい

「はい、カット！」

これは、すべてお芝居だったんだ。

けれど、俺の灰原の思いは本物だ。放したくないぜ

「工藤君、いい加減はなしてくれない？」

「もう少しだけ、こうしていてもいいか？」

灰原に言った。

「いいわよ」

灰原は許してくれた。

暫く抱き合っていた俺は、灰原の耳元で囁いた。

「灰原さっき俺が言ったこと覚えているか？」

「ええ、覚えているけど・・・それが何？」

一呼吸置いてもう一度言った。そうじゃないとちゃんと分かってもらえないと思ったから

「俺は本当に灰原のことが好きだから」

「何よ、急に・・・」

びっくりするだろうよ。芝居と違ってこれは本当の俺の気持ちなんだぜ

マネージャーからキスシーンがあるって聞いたとき、嬉しかったんだぜ？だって、あの灰原とキスできるんだからな。

自分でも大喜びしたんだぜ？

灰原は俺に返事を聞かせくれるだろうか？待っていると、灰原から信じられない言葉が出てきた

「私も・・・好きよ・・・コナン・・・」

嬉しい気持ちでいっぱいになったんだぜ。

「哀・・・」

「コナン・・・」

数分見つめあい、またキスをしたぜ。

まさか、これがきっかけで付き合つことが出来るなんて思わなかったぜ

## 余談

後日、灰原とデートに出かけた。

そのときの灰原の服装と言ったら。可愛らしかった。緋色のワンピース。

灰原の可愛さを引き出していた。何を着ても可愛いなと思った。

「灰原似あっているぜ」

まともに見れなくて、顔を逸らした。

灰原の手を取り、遊園地の中に入って行っただ。

おしまい

## （後書き）

続編を読みたいと申しました方、要望ありがとうございます。今度は、`コンサnsaid`でお送りいたします。  
評価・感想・ダメだしをお願いします。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3412e/>

---

始まった恋～コナンside～

2011年10月4日22時08分発行